

ACADEMIC INTEGRITY

よりよい学びの場とは
どのようなものだろうか

はじめに

金沢工業大学における 学びと成長のために

学長 石川憲一



金沢工業大学 (KIT) は建学綱領として「人間形成」「技術革新」「産学協同」を掲げ1965年に開学し、今年で45年を迎えることとなります。その間、5万2千名を数える人材を世に送り出し、卒業生である先輩達は、日本はもとより、世界中で活躍してきています。現在、KITは主役である学生、教職員、理事が三位一体となって建学綱領の達成を目指し、学園全体が共有すべき行動規範として「KIT IDEALS」を定め、さらに学生諸君は「学生宣言」を行い、「自ら考え行動する技術者」の育成やその成長に力を注いでいます。このような明確な目的・目標を有するKITにおいて研鑽を積む学生諸君は、最新の施設・設備や教育システム等をそなえた環境の中で、各自が描いた夢の実現に向かって着実な歩みを進めていることと思います。

諸君はKITに学ぶ4年間(学部)、さらには2年間ないし5年間(大学院)において、技術革新や産学協同に参画できる確かな「専門力」(知識やスキル)を身に付けると同時に、人間形成の一環である「人間力」を高めることが必要です。

このような背景のもとに、KITは21世紀の我が国を担い、グローバルに活躍できる人材を育成するために、価値の共有による新たな技術者教育を推進しています。

本冊子は諸君がKITにおいて学び、一層成長するための基本的な事柄を明示してありますので、常に手もとにおいて活用して下さい。

ACADEMIC INTEGRITY

よりよい学びの場とはどのようなものだろうか

はじめに -3

1. この冊子はお守りです -6

2. アカデミック・インテグリティとは -8

3. 私たちに関わる倫理

3-1. 学びの倫理編 -18

3-2. 技術者の倫理編 -24

4. 実際にどのようなことが問題になるのだろうか

4-1. 大学編 -30

4-2. 仕事編 -36

金沢工業大学研究倫理規定 -41

5. こまったときは -42

付録／課題提出前のチェックリスト

1. この冊子 はお守り です

「科学技術者倫理」担当者一同

倫理について考えてみよう

この冊子では、「倫理」について考えます。

「倫理」。ずいぶん硬い印象を受ける言葉ですね。「こういう時はああしろ」とか「～してはいけない」と先生に言われそう。あるいは正解のない問題に悩み続ける感じ。

ただ、もしあなたの携帯電話が壊れてしまったらどうなるでしょう。電話はおろかメールのやり取りも、ネットから情報を得ることもできなくなります。ふだんあまり意識していないかもしれませんが、現代社会は科学技術によって支えられています。

皆さんへの大きな期待

その科学技術を支えていくのは、これから科学者・技術者になるうとする皆さんです。この社会が平和で安全であり続けるために、皆さんには大きな期待が寄せられています。

皆さんがその期待に応えるためには、専門分野はもちろんのこと、「この社会はどのようなもので、どのように動いているのか」あるいは「自分はどのよう行動すべきか」といった社会的な問題について深く考え、それを行動に移していく必要があります。国境を越えたグローバル化が広く深く進行していますから、一人の日本人として世界の動きを見据えて行動することも重要です。

問題に直面したときの「お守り」として

これらは「～しないように気をつける」といった個人的な努力だけでは、とても解決できそうにはありません。そのためには、よりよい考え方や行動を進めるための「よりどころ」が必要です。

KITでは、建学綱領の一つとして「人間形成」を掲げており、「KIT IDEALS」などが定められています。この冊子は、これらを「よりどころ」としながら、倫理的な考え方や行動を実現していくための道しるべ、あるいは問題に直面した時の「お守り」となるように作成されたものです。ぜひ、日々の大学生活の中で、そして未来を考えるとときに、この冊子を参考にしてもらえればと思います。

2. アカデミック・ インテグリティ とは

「この地上にあるもので、大学ほど美しいものはほとんどない」と、ジョン・メイスフィールドはイギリスの大学の賛辞のなかで書いている。そして、この言葉はこの大学についても同じく真実である。彼はとがった屋根や塔、学園の芝生やつたの生い茂った壁のことをいったのではない。彼が大学というもののすばらしい美しさを称賛したのは、大学は「無知を憎む人々が知ることに努め、真理を知っている人々が、他の人々の眼を開かせようと努力する場所」だからである。

第35代アメリカ合衆国大統領 J.F. ケネディ、1963年6月10日、アメリカン大学にて
黒田和雄訳「ケネディ大統領演説集」原書房(1963年)

真理に対する誠実さ

大学が地上でもっとも美しい理由は、そこに集う人びとが、「真理」に対して誠実であるという重要な価値を共有しているからです。それは、例えば、神社や教会などの神的なものを崇拜する場所を持つ美しさに似ています。しかし、大学がさらに美しいのは、特定の宗教や思想を超越して、人類全体が共有できる「真理に対する誠実さ」という価値を基盤として、コミュニティが出来上がっているからです。

さらに、このコミュニティは、KITというひとつの機関を越えて、日本中の、そして、世界中のすべての研究・教育機関で学術的な活動を行う人たちを含みます。

このように学術に参画する人びとがコミュニティを形成する基盤として共有している「真理に対する誠実さ」という価値を、英語ではacademic integrityといいます。適切な日本語の訳語がないので、ここでは「アカデミック・インテグリティ」と表記することにします。

高等教育を受ける権利を与えられている私たち

皆さんのなかには、大学に入ることがそんなたいそうなことだとは思っていなかったし、そんな大それたコミュニティに自分で関わった覚えはないよ、という人もいるかもしれません。しかし、高等教育を受けることができる人、つまり、アカデミック・コミュニティに属する特別の「権利」が与えられている人は、世界の63億の人口のなかでわずか1%程度なのです。

この権利を与えられている私たちは、それに見合う義務を果たす必要があります。その義務とは、アカデミック・インテグリティという価値を理解し、これを共有し、さらに、この価値を基盤とするコミュニティを育て、次の世代へと繋げていくために最善の努力をすることです。

アカデミック・インテグリティを 共有するコミュニティを特徴づける 5つの価値

Honesty (正直)	Trust (信頼)	Fairness (公平)
Respect (尊敬)	Responsibility (責任)	

米国の200以上の大学が参加している研究機関である
The Center for Academic Integrityの報告書をもとに改変
出典: The Center for Academic Integrity, "The Fundamental Values of Academic
Integrity," 1999 [http://www.academicintegrity.org/fundamental_values_project/
pdf/FVProject.pdf](http://www.academicintegrity.org/fundamental_values_project/pdf/FVProject.pdf)

1 | Honesty (正直):

真理と知識を追い求めるためには、修学、教育、研究、サービスを
学術上、また、個人としても「正直に」行う必要があります。

◎もし、学生が実験のデータを正直に記録していなかったとしたら
どうなるでしょうか。◎もし、教員が学生の成績を正直につけ
ていなかったとしたらどうなるでしょうか。

2 | Trust (信頼):

アカデミック・コミュニティの中では、お互いに自由な意見の交
換ができ、また、個々人が自己実現できるように、学生、教員、研究
者、事務担当者などコミュニティを形成する人びとの間に「信頼」
関係がなければなりません。

◎もし、教員が学生を信頼していなければ、実験を任せることが
できるでしょうか。◎もし、学生が教員を信頼していなければ、そ
の教員から与えられた知識や指示を受け入れることができるで
しょうか。

3 | Fairness (公平):

学生、教員、大学運営責任者の間での相互関係は、すべて明確な基
準、手順に基づいて「公平」でなければなりません。

◎もし、学生の処分などが恣意的に行われたら、大学はどうなる
でしょうか。◎もし、学生や教員が、その性別や国籍などで差別さ
れたとしたら、大学はどうなるでしょうか。

4 | Respect (尊敬):

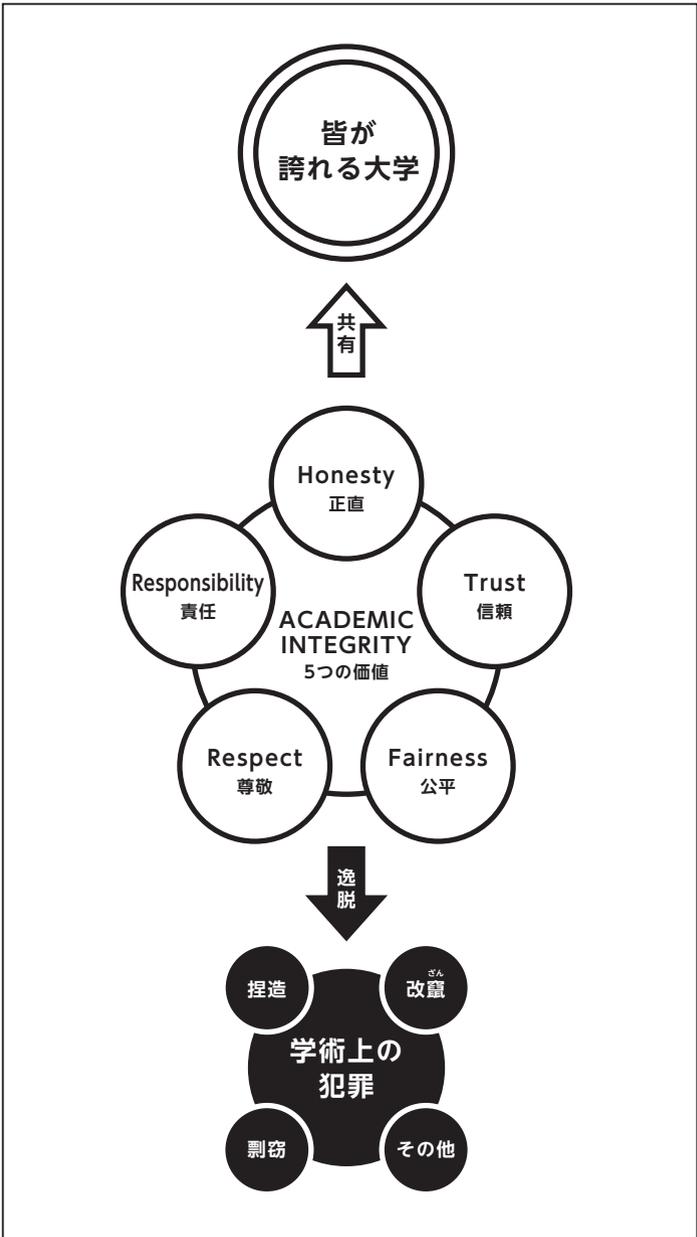
本当の意味で学ぶことは、受け身ではできません。アカデミック・
コミュニティでは、学習は参加することで可能になると考えられ
ています。したがって、コミュニティの一員として真摯に学習や
議論に参加する際、その人がどのような意見や考え方を持ってい
ようと、敬意を持って受け取られます。

◎学生の意見が、他の学生や教員から「そんな幼稚なことを発言す
るな」と批判されるような環境で、自由に意見が言えるでしょうか。
◎年長者や上級者に対して意見が言えないような環境で、真理を
追い求めることができるでしょうか。

5 | Responsibility (責任):

アカデミック・コミュニティに属する限り、そのメンバーはコ
ミュニティを守るために個人的に努力する責任があります。もし、
害になることが行われようとしたとき、コミュニティの一員とし
てこれを阻止する行動を取ることが求められています。

◎もし他の学生が、実験ノートに嘘の記載をしているのを知りな
がら、それを見ないふりをするとしたら、大学はどうなるでしょ
うか。◎一生懸命学ぼうとしている学生を、他の学生が邪魔をして
いるのを、教員が黙認したらどうなるでしょうか。



これら5つの価値を
重要なものとして認め合い、
成長することができるコミュニティを、
ケネディ大統領は、
「地上で最も美しい」と賛美したのです。
そのようなコミュニティに
所属することは誇りなのです。

5つの価値に反する行為は学術上の犯罪です

逆に、これら5つの価値に反する行為（例えば、事実に対して不正直であること、学生や教員を信頼しないこと、他者の意見に敬意を払わないことなど）は、アカデミック・インテグリティを阻害する不正であり、学術上の「犯罪」です。とくに、ありもしないデータや証拠をでっち上げる「捏造」、事実を都合のよいように直して提示する「改竄」、また、他者のアイデアや文章を正当な手続きを踏まずにあたかも自分のもののように発表する「剽窃」は、一般社会において殺人が重大犯罪であるのと同じように、学術上の重大犯罪です。なぜなら、それは、単にその不正を行った個人やグループに対する信頼だけでなく、特別の権利を与えられているアカデミック・コミュニティ全体に対する社会からの信頼を大きく傷つけることになるからです。

技術者が重視すべき価値を理解する

また、ほとんどの皆さんは、将来「自ら考え行動する技術者」として活躍する際、技術の専門家の一員として、技術者コミュニティに属することになります。ここでは、アカデミック・インテグリティに加え、公衆の安全・健康・福利という価値を最優先し、人類の利益のために貢献することが求められます。このようなコミュニティの一員となるわけですから、技術者が重視すべき価値を理

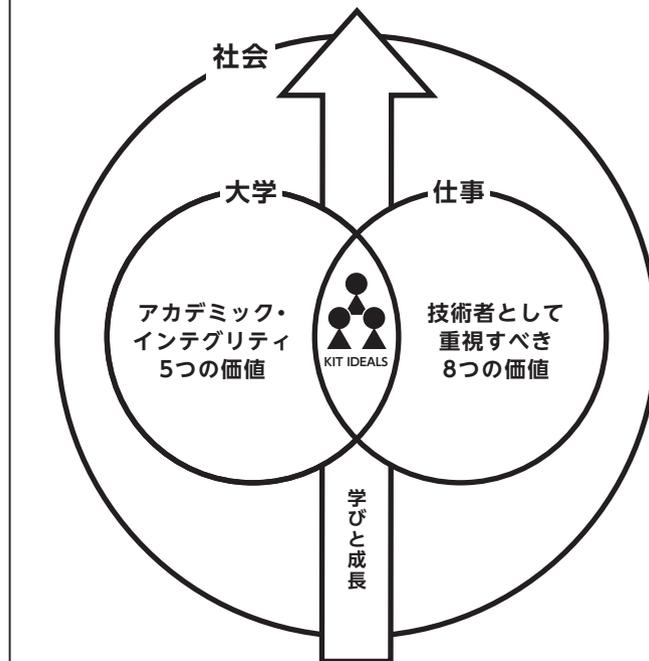
解し、共有する必要があります。専門領域の知識や技能を身につけるだけでなく、技術者コミュニティの先輩である教員が、どのような「価値」を重視しているのかを考えながら講義や実験に取り組んでください。きっとこれまでとは違った世界が見えてくるはずです。

私たちが共有すべき価値

さらに本学には、「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）として「KIT IDEALS」があります。「KIT IDEALS」で明示されている価値として、例えば、知的好奇心 (intellectual curiosity)、誠実 (integrity)、自己実現 (self-realization)などはアカデミック・インテグリティと共通です。KIT IDEALSの中で、思いやりの心 (kindness of heart)と表現されている価値は、人類の利益のため、公衆の安全・健康・福利のために仕事をするという技術者の高邁な志向 (aspiration)を意味しています。

単に、アカデミック・インテグリティだけではなく、将来人類のために奉仕をする技術のプロフェッショナルとして共有すべき価値も、「KIT IDEALS」や、技術者倫理に関する学習や検討を通して理解し、これらに基づいた意思決定が出来るように自らを鍛え上げてください。

**KITのコミュニティを構成する
メンバー 一人ひとりが、
アカデミック・インテグリティの
核となる5つの価値、「KIT IDEALS」、
また、技術者として重視すべき価値を
共有することにより、
世界中のどの大学よりも「美しい」大学を
作り上げようではありませんか。**



KIT IDEALS

「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）

私たちは、学園共同体として共有すべき価値を
“KIT-IDEALS”として定め、
これらに基づく信条を次の通りまとめました。
これを学生、理事、教職員が常に意識し、
尊重することにより学園共同体の向上発展を目指します。

Kindness of Heart (思いやりの心):

K 私たちは[素直、感謝、謙虚]の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。

Intellectual Curiosity (知的好奇心):

I 私たちは[情熱、自信、信念]を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。

Team Spirit (共同と共創の精神):

T 私たちは[主体性、独創性、柔軟性]を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。

Integrity (誠実):

I 私たちは誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。

Diligence (勤勉):

D 私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。

Energy (活力):

E 私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。

Autonomy (自律):

A 私たちは、自律することを大切にし、一人ひとりを信頼し、尊敬します。

Leadership (リーダーシップ):

L 私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割における自覚と責任を持ちます。

Self-Realization (自己実現):

S 私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に臆することなくさらに高い目標に挑戦することに努めます。

3-1.

私たちに関わる倫理

学びの倫理編

学びには倫理があります。学びを進める上では、自分自身、まわりの人たち、学びの場を共有する人たち、そして社会全体に対して責任を持たなければいけません。これらを実践していくために、社会にはさまざまな行動規範が存在し、これらは専門の研究者だけでなく、学生にも適用されるのです。

韓国研究倫理情報センター (<http://grp.or.kr>) より
執筆者のソnfアチオル氏 (ハンドンテ大学) の了承を得て改変

社会的な活動としての学び

学ぶということは個人的な活動ではありません。実際の学習は一人でおこなうとしても、過去の人たちが切り開いてきた学問の蓄積がなければ、学びという活動そのものが不可能になります。このように、学びとは社会的な活動ですから、人間関係において守らなければならない倫理が存在します。そして、大学とは、選ばれた人たちがより知識を高めていくための高等教育機関ですから、大学における学びの倫理はこれまで以上に重要なものとなります。ここでは、次の3つのレベルに分けて、学びの倫理の重要性について考えてみましょう。

① 学ぶ人の姿勢 — 個人・家族のレベル

② 学ぶ人たちのあいだの規則 — コミュニティのレベル

③ 学ぶ人の社会的責任 — 大学全体のレベル

① 学ぶ人の姿勢

目的意識

- 自分は何で大学に入学したのでしょうか？
- 自分は何でこの科目を勉強するのでしょうか？

誠実

- 誠実さは、学ぶ人にとって、一番基本的で重要な態度です。
- 学びは、結果だけでなく、その過程も重要です。

責任意識

- 学びには、つねにその機会費用がともなっています。

2 学ぶ人たちのあいだの規則

独創性を通じて、学問の世界に貢献する

●学ぶ人たちは、学問の世界に身を置いています。その分野で独創性を生み出していければ、学問の世界はさらに豊かになっていきます。

●独創性は無から生じるものではなく、その分野で蓄積されてきた知識に基づいて発揮されるものです。学びを進める人たちは、この独創性のための実力を育てていることになります。

●すでに独創性を認められた論文や課題は、適切に利用されなければなりません。

他人の業績を利用する

●独創的な貢献は、きちんと認められる必要があります。

●ですから、それらを引用する場合には、読者がその文献をきちんと探して確認できるように、形式にしたがってその詳細を明示しなければなりません。

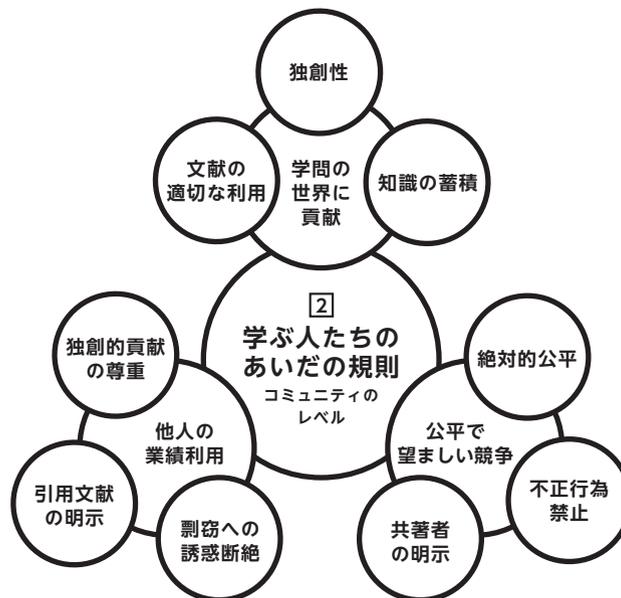
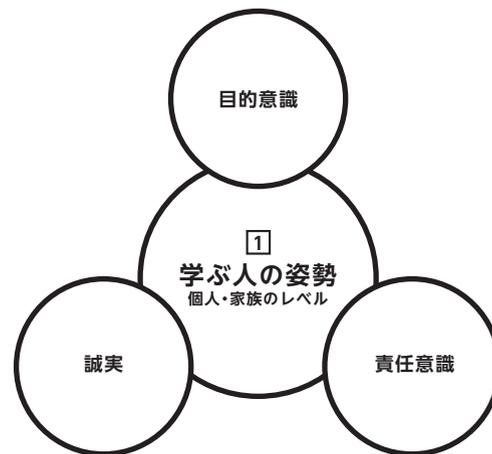
●剽窃は、他人の独創的な貢献を自分の業績と偽って発表することであり、認められません。学ぶ人は、剽窃への誘惑を断ち切る必要があります。

公平で望ましい競争

●学びを進める上で競争がおこなわれる場合、それは絶対に公平でなければいけません。

●論文や課題に貢献した人の名前を共著者として書かなかつたり、貢献していない人の名前を書いたりすることは公平ではありません。

●試験時間に不正行為をおこなうことは、このような精神を傷つける行為です。



3 学ぶ人の社会的責任

学びは真理の探究への入口

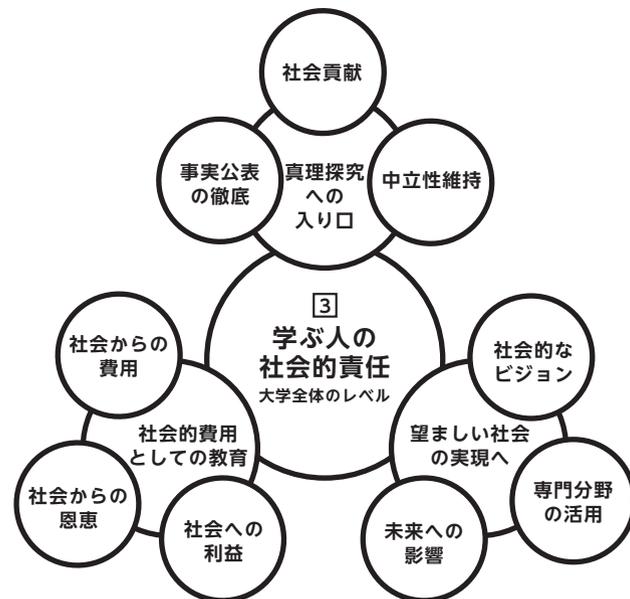
- 学びとは、真理を探究することで社会に貢献する行為です。
- 嘘だと知りながら、それを事実として公表することは、社会に対する犯罪行為と言えます。(捏造・改竄の問題)
- 学問では、最大限の中立性を維持し、政治的、経済的な理由によって歪められるような事があってはいけません。

教育は社会的な費用

- 大学で学ぶ機会をつくるために、社会も一定の費用を支払っています。
- 大学生というだけでさまざまな責任が免除され、卒業後には社会から一定の恩恵を受けることもできます。
- よって、学びの結果は社会にとっても有利なものではなければいけません。何を有利とするかは解釈の余地がありますが、少なくとも学ぶとする人は社会の利益も念頭に置く必要があります。学びの機会を、自分の利益や好奇心のためだけに利用しようとすることは、望ましいことではありません。

望ましい社会を実現するために

- 学びを進めていく上では、自分にとっての専門知識以外にも、どんな社会が望ましい社会であるか、それを実現するためにはどうすればよいか、つねに考えておく必要があります。
- そのような社会についての考えは、つねに他人の意見を取り入れながら修正していく必要があります。
- 望ましい社会を考える場合には、未来の人たちのことも考えなければいけません。現代の科学技術の影響が、未来の人たちに及んでいくことをきちんと自覚する必要があります。
- 自分の専門分野を活かして、このような社会の実現に努めなければなりません。



3-2.

私たちに関わる倫理

技術者の倫理編

現在、技術者の専門家の集まり（技術者の学会や協会）の多くは、自分たちが重視すべき価値や行動規範を文章にして社会に公開しています。これを「倫理綱領」と呼びます。ここではそれらに明示された重要な項目をいくつか取り上げて、技術者が専門家として重視すべき価値を確認することにしましょう。

技術者として重視すべき 8つの価値

公衆の安全・健康・福利	守秘義務
誠実	社会・環境への配慮
客観性	多様な価値への配慮
開示性	法令遵守

1 | 公衆の安全・健康・福利

社会にとって不可欠な重要な仕事

技術者は、専門家として依頼主に忠実に仕事をするのはもちろんですが、さらに一般市民、つまり公衆の安全や健康や福利に配慮することも必要とされています。技術者の仕事は社会を支えるものであるため、こうした配慮が必要となるのです。逆に言えば、技術者は社会にとって不可欠な、重要な仕事をしているとも言えます。

2 | 誠実

社会に対して誠実に仕事をする

これは「KIT IDEALS」にも明示されていたように一般的にも重要なものですが、特に専門家には強く求められるものです。たとえば同じく技術者としての仕事をしている同業者の間や、また依頼主との間で専門家としての誠実さが求められます。さらに広い意味では、社会に対して誠実に仕事をしていくことも必要だと言えるでしょう。

3 | 客観性

客観性を欠いたものは社会の崩壊を招く

技術者が仕事をする上で扱うデータなどにはもちろん客観性が求められます。社会の基盤となる技術が客観性を欠いたものだとすると、社会自体が崩壊する危険さえあります。それゆえ現在では、科学技術に関する不正には社会からも厳しい目が向けられています。「2. アカデミック・インテグリティとは」で扱った内容とも合わせて考えてみましょう。

4 | 開示性

情報をオープンにすることの責任

聞き慣れない言葉かもしれませんが、情報をオープンにするという意味です。現在盛んに求められている「情報公開」や「説明責任」などが含まれます。技術者も、特に公衆の安全、健康、福利に関係する事柄については、情報の開示性が求められます。また、専門家の集まり（技術者の学会や協会）としても、これに対応することが求められます。

5 | 守秘義務

必要な場合を除き、秘密は厳守すること

仕事をする上で知り得た情報を他の会社に漏らすなどの行為は大きな問題があります。しかし、何らかの不正を知ってしまった場合も守秘義務を負わなければならないでしょうか。この点は非常に難しい問題を含んでいますが、必要な場合には、いわゆる「内部告発」（公益通報）をするべきだと一般的にはされています。ただし、「必要な場合」とはどのような場合なのか、慎重な判断が必要です。

6 | 社会・環境への配慮

専門知識だけでなく持続可能性に対する配慮を

現在の多くの倫理綱領は、技術が社会に与える影響を考慮することの必要性を明示しています。特に環境に対する配慮は、これからの技術者に必須のものでしょう。具体的には「持続可能性」などに配慮することが求められています。したがって、これからの技術者は、狭い意味での専門知識を持つだけでは十分とは言えないということになります。

7 | 多様な価値への配慮

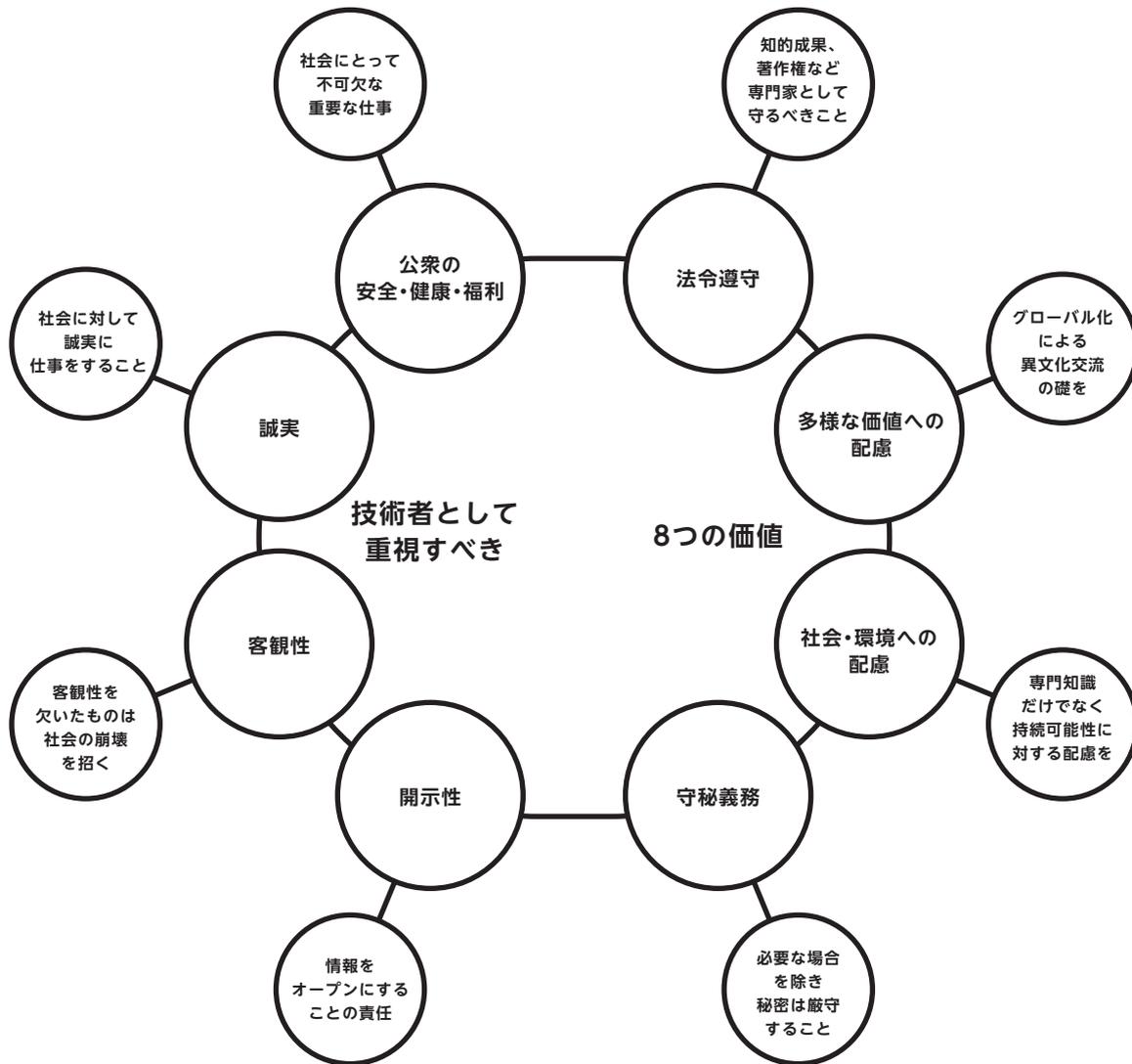
グローバル化による異文化交流の礎を

現在の社会では、技術が作り出した製品はもちろん、サービスや人も国境を越えます。いわゆる「グローバル化」が進んでいるのです。これからますます異なった文化圏の技術者と仕事をする機会が増えるでしょう。私たち日本人が海外で仕事をするのであれば、海外の技術者が日本へ来て仕事をすることもあるでしょう。こうした時に多様な価値を配慮する必要性が生じます。

8 | 法令遵守

知的成果、著作権など、専門家として守るべきこと

技術者も社会の一員として法律に従わなければならないのはもちろんですが、特に専門家として仕事をする上で関係する法律にも注意しなければなりません。たとえば、他人の知的成果、著作権などを侵さないといったことが挙げられるでしょう。業務に関連する法律についてはしっかりと把握をし、それを遵守する、つまり守る必要があります。



4-1. 実際にどのようなことが 問題になるのだろうか 大学編

大学という高等教育の場で高度な知識・知恵を学ぶ者としての使命や誇りについて、皆さん一人一人が考えてくれたことと思います。それを踏まえて、アカデミック・インテグリティについても一度、今度はより具体的に見てみることにしましょう。

アカデミック・インテグリティに反することとは

皆さんは、入学した時に「学生宣言」に署名し、学生生活においてアカデミック・インテグリティを持ち続けることを宣言しました。したがって、端的に言えば、「学生宣言」に反する行為・行動をとることがアカデミック・インテグリティに反することになります。

具体例をいくつかあげてみましょう…

- 授業などの出欠確認の時の代返・代筆
- 各種試験でのカンニング(自分でする、見せてあげる)
- レポート課題での剽窃
- 公的な資格試験における不正受験

これらは、残念ながらですが、いずれも本学で実際に起こったことです。「えっ、この程度のことくらい、みんなしているよ。大したことないんじゃない!?」「友達のために、かわりに出席調査用紙に氏名を書いただけなのに…」[受講科目の課題が重なって時間が足りなくなったから、提出期限を守るために剽窃は仕方なかったんだ。そもそも課題の出し過ぎでは!?]「単位が認定されないと留年だから止むを得ないんだ」

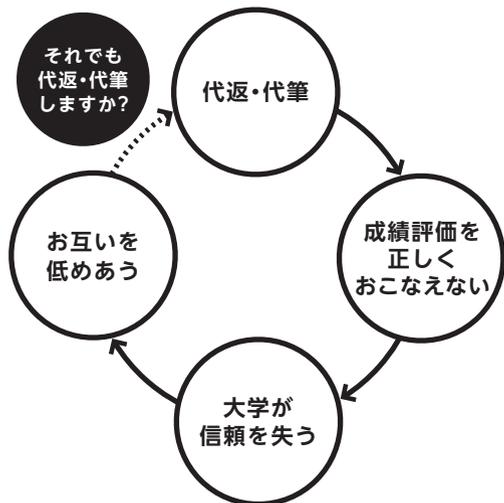
…と思うかもしれませんが、しかし、程度の差や事情の有無はあっても、これらはアカデミック・インテグリティに反する行動です。

**そして、このような行動は、
本学の人々の間の信頼をなくし、
大学というコミュニティ(社会)を
崩壊に導く原因になります。**

例えば、以下の問題について考えてみましょう。

代返・代筆により 生じる重大な問題

多くの人が「この程度くらい」と代返・代筆をしたり、小テストでのカンニングをしたりすると、成績評価を正しくおこなえなくなります。そうすると、本学の学位、すなわち大学の「卒業」資格が、社会からの信頼を失うこととなります。そして、一部の人たちだけでなく、この大学に関係する全員が社会的信用を失うことにつながるのです。互いを高めあってこそその友人です。代返・代筆などの行為は、「友人のため」どころか、お互いを低めあうことなのです。



図中の「代返・代筆」を前ページに記した「各種試験でのカンニング」「レポート課題での剽窃」「公的な資格試験における不正受験」に入れ替えて、考えてみましょう。

課題が重なった状態を放置しない

期限を守ることがとても重要なのは言うまでもありません。しかし、形式的に期限を守っても内容をともなわなければ意味がないですし、そのために不正が行われるならばむしろ有害です。課題の準備が論理的に不可能であれば、そのことを事前に担当教員に申し出て、提出期限の調整をすべきでしょう。能動的に（自ら主体的に）「学ぶ」姿勢があれば、そのように試みるはずです。「課題が重なった」のではなく、受動的に「教わる」という学習姿勢で、「課題が重なった状態を放置した」のではないのでしょうか。

アカデミック・インテグリティの低下が 大学コミュニティの崩壊を招く

皆さんは、学ぶために、自発的に本学に入学したはずですが。単位の取得や進級は、皆さんの「自らの学び」の結果であり、目的ではありません。高等教育機関である大学は、「自ら積極的に学びたい人がやってくる」ことを前提としています。その前提が成り立たなくなれば、大学という「学びの場」は機能しなくなってしまうのです。アカデミック・インテグリティの低下が大学コミュニティを崩壊させるというのは、決して大げさな表現ではありません。

アカデミック・インテグリティの維持向上が 皆さんの将来をより良い方向へ導く

重要なのは、皆さん一人一人が、本学の学生としての誇りを持つことではないでしょうか。本学の高い評価を誰がもたらしたのかを考えてみてください。それをもたらしたのは、本学で学んだ人たち（皆さんの先輩たち）です。つまり、現在の皆さんの行動が、未来の社会からの高い評価につながるのです。

このような視点から考えてみれば、アカデミック・インテグリティを維持し、向上させることは、皆さんの将来をより良い方向へと導く前向きなことだとわかるでしょう。本学学生としての誇りを持ち、それを失わないように、学生生活を送りましょう。

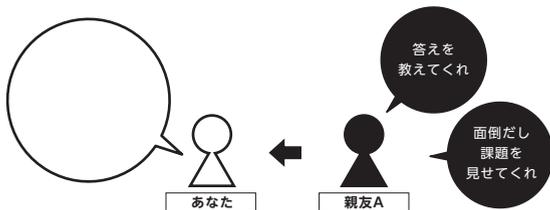
HOW DO YOU THINK?

以下の状況について考えてみましょう。

Q. 親友が課題を見せてくれと言ってきたら？

自習室で明日が提出期限の課題を進めていると、親友のAが課題について教えてほしいと言ってきました。あなたは問題を解く手がかりを教えるために説明を始めると、Aは「そんなのはいいからとにかく答えを教えてくれ」と言います。さらに、「面倒だから課題を見せてくれ」とも言ってきます。

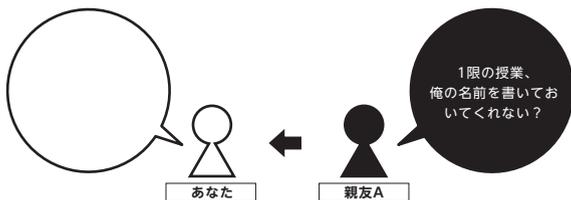
◎あなたはどうしたら良いでしょうか。



Q. 代返は友情の証？

今日の授業を終えて帰り支度をしていると親友のAが近寄ってきました。「明日、どうしてもバイトのシフトを変えられないんだ。1限の授業、どうせ出席用紙をまわすだけだから俺の名前書いておいてくれない？」

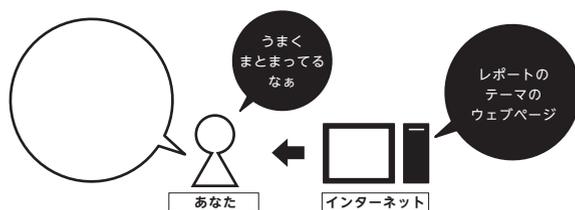
◎あなたはどうしたら良いでしょうか。



Q. レポートの情報源をどこまで書く必要があるの？

レポート課題のテーマが難しく、どう書き進めていいかわかりません。そこで、まずはネットで情報を集めようと思いました。さっそくレポートのテーマをキーワードに検索されたウェブページを読んでみたところ、とてもうまく論点をまとめてあります。そこで、このページを参考にしながらレポート作成を進めようと思います。

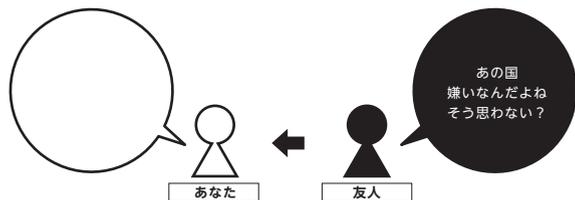
◎どのようなことに気をつける必要があるでしょうか。



Q. 文化はいろいろだと思う…

私の友人は、ことあるごとにある国の悪口を言い、私に同意を求めてきます。そのたびに、うなずいてはみるのですが、良心が痛みます。

◎こういう場合、どうすればいいでしょうか。



4-2. 実際にどのようなことが 問題になるのだろうか 仕事編

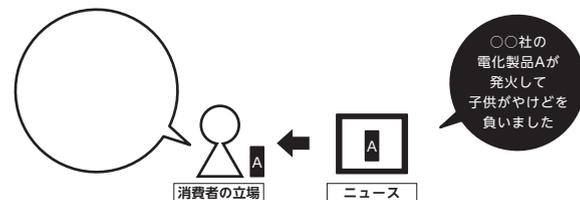
次のような場合、あなたはどのように思いますか？
また、このことに関連して、どのような行動を起こしますか？
考えてみましょう。

CASE1 | 電化製品の欠陥

電化製品に起きた発火事故をケースに、次の4つの立場から考えてみましょう。

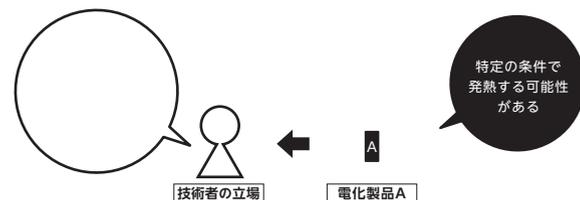
1 消費者の立場なら

ニュースで、あなたが購入したものと同一電化製品が発火して子供がやけどを負った事故が報道されました。◎あなたはどのように思いますか。◎また、このことに関連して、どのような行動を起こしますか。



2 技術者の立場なら

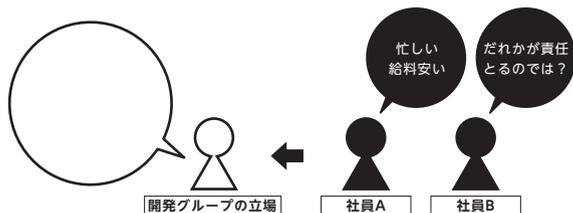
あなたの所属している開発グループでは、自分たちが開発に携わった製品が特定の条件で発熱する可能性のあることがわかっています。しかし、その可能性は通常の使い方をしていればほとんど起こらないこともわかっています。その製品は、もう売り出してしまっていて、今から対応しようとする大変です。◎あなたはどのように思いますか。◎また、このことに関連して、どのような行動を起こしますか。⇒参考/公衆の安全・健康・福利 p.25



3 開発グループの立場なら

あなたの所属している開発グループでは、仕事に忙殺される一方で給料も安く、社員の間にも仕事を増やしたくないという雰囲気が出ています。トラブルの対応は残業や週末仕事の増加につながりますが、事故が起こっても、責任を取るのとは別の人だろうということで目をつぶり、誰も自分から行動を起こさずとしません。

◎あなたはどのように思いますか。◎また、このことに関連して、どのような行動を起こしますか。

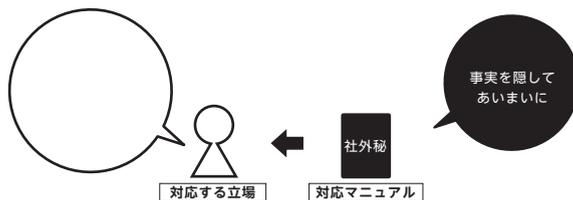


4 会社側として対応する立場なら

いざ事故が社会問題になると、自分たちがそのような問題を把握しながら問題の対処を先送りしていたことは、とても不都合なことのように思えてきました。そのため、事情聴取や記者会見では問題を把握していた事実を一部隠し、経営陣の責任をあいまいにしながら問題をできるだけ小さく見せるための社外秘の対応マニュアルもまわってきました。

◎あなたはどのように思いますか。◎また、このことに関連して、どのような行動を起こしますか。

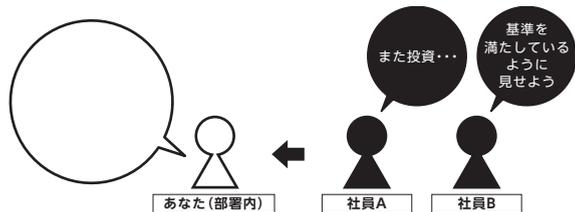
⇒参考/誠実 p.25、開示性 p.26



CASE2 | 環境問題への対応

あなたの部署では、さまざまな環境汚染物質を扱っています。それらを管理するために、これまでいろいろと設備投資をしてきました。しかし、このたびこれらの物質に対してより厳しい基準が導入されることになりました。そのため、また多大な投資をして、対策を講じる必要があります。とはいえ、物質そのものの環境への影響が変わるわけではありません。そのため、あなたの部署では対策に対して後ろ向きな雰囲気が漂っています。実際、基準を満たしているように見せるための対応なども考えはじめています。

◎あなたはどのように思いますか。◎また、このことに関連して、どのような行動を起こしますか。⇒参考/社会・環境への配慮 p.27、法令遵守 p.27

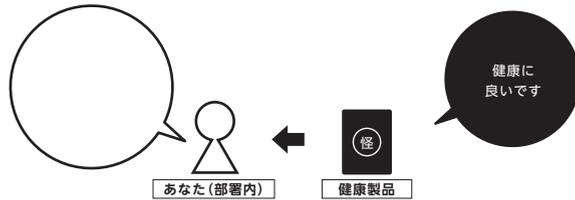


CASE3 | 健康製品の科学的効果

あなたの部署では、健康に良いとされる付加価値のついた製品を開発しています。しかし、あなたはその科学的な効果がどうも怪しいと思っています。

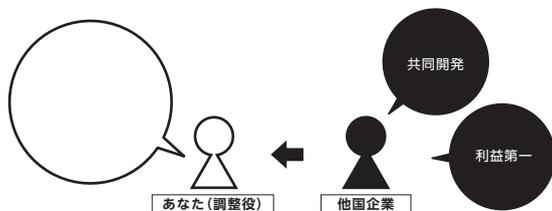
◎あなたはどのように思いますか。◎また、このことに関連して、どのような行動を起こしますか。

⇒参考/客観性 p.26



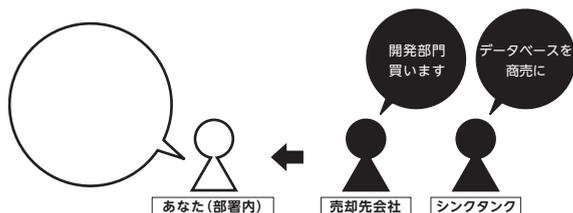
CASE4 | 共同開発のゆくえ

あなたの部署では、このたび他国の企業と新製品の共同開発を進めることになり、あなたがその調整役に選ばれました。ただ、あなたはその企業の雰囲気がどうも性格に合わないような気がしてしまいます。利益を第一に考える雰囲気が強く、仕事の進め方は強引で、あなたの会社が大切にしてきた顧客からのイメージも損ねてしまうのではないかと心配してしまいます。しかし、世界に目を向けて新しい顧客層を掘り起こす必要も十分にわかります。◎あなたはどのように思いますか。◎また、このことに関連して、どのような行動を起こしますか。⇒参考／誠実 p.25、多様な価値への配慮 p.27



CASE5 | 開発部門売却の真意

あなたの部署では、ある製品について顧客情報の管理をしています。このたび、その製品の開発部門が他社に売却されることになり、その販売に関する情報も売却項目に入っています。なお、売却先の会社はシンクタンク会社も有しており、さまざまなデータベースを買い集め、それらを結びつけて商売に利用しているようです。◎あなたはどのように思いますか。◎また、このことに関連して、どのような行動を起こしますか。⇒参考／開示性 p.26、守秘義務 p.26



金沢工業大学研究倫理規程

●学校法人金沢工業大学における科学技術研究の行動規範(平成18年4月1日施行)
科学技術に関する研究は、より豊かな人間社会を実現するために必要不可欠な活動であり、その成果は社会に還元され、人類全体が共有することを目的とする重要な営為である。かかる研究活動は、学問の自由と研究者の主體的判断の下に、社会の信頼と負託を前提として初めて成立する。したがって、研究者は、自らの研究活動の透明性を確保し、社会に対する説明責任を果たすことに高い責任感をもって努めることは当然である。
こうした基本的認識の下に、学校法人金沢工業大学は、ここに科学技術研究における研究者の行動規範を次のとおり定める。

- 1 (研究者の責任) 研究者は、自らの専門知識、能力、経験を生かし、社会の発展、人類の福祉、環境の保全に貢献する責任を有する。
- 2 (研究者の行動) 研究者は、常に正直、誠実、自律的な判断のもとに行動し、研究によって生み出される「知」の正確性、正当性、有益性を、科学的かつ客観的に説明する責任を有する。
- 3 (研究活動) 研究者は、自らの研究の立案、計画、実施、報告等において誠実に行動し、ねつ造、改ざん、盗用等の不正行為を行わず、かつ不正行為が起きない研究環境の整備に努める。
- 4 (自己研鑽) 研究者は、自らの専門知識・能力の向上に努め、科学技術と社会・環境の関係を広い視野から理解するよう努める。
- 5 (研究費の適正使用) 研究者は、研究費を適正に使用する責任を有する。
- 6 (研究対象者の保護) 研究者は、研究協力者や研究の対象(動物などを含む。)に対しては法令を遵守するとともに、福利に配慮し、保護に努める。

●学校法人金沢工業大学研究倫理規程(平成15年4月1日施行)

(目的) 第1条 この規程は、学校法人金沢工業大学教職員(以下「教職員」という)が、工学技術に関する学理の追求と、その成果の活用にあたり、遵守すべき事柄を定めることにより、人類への貢献と社会的信頼の確保に努めることを目的とする。

(遵守事項) 第2条 前条の目的を達成するため、教職員は工学技術が社会に与える影響を十分認識したうえで、適用される法令とともに次の事項を遵守しなければならない。

- 1 人類と国際社会の安全、健康、福祉に貢献するよう行動する。
- 2 自らの自覚と責任において、学術の発展と文化の向上に寄与する。
- 3 他者の生命、財産、名誉、プライバシーなどを尊重する。
- 4 他者の知的所有権と知的成果を尊重する。
- 5 すべての人々の人権を尊重し、国籍、宗教、性別、障害、年齢などにとらわれない公平な間わりを順守する。
- 6 専門知識の維持・向上に努め、最善の業務遂行に尽力する。
- 7 技術開発が、公衆や環境に悪影響を及ぼす要因があると判断した場合、適時公表し、広く社会へ知らせる。
- 8 技術上の主張や判断は、学理と事実とデータに基づき、誠実かつ公正に行う。
- 9 技術的討論の場においては、他者の意見や批判を尊重するとともに、誠実に応答する。

附則

- 1 この規程は平成15年4月1日から施行する。

その他、関連規程として、

●学校法人金沢工業大学における科学技術研究の行動規範

●学校法人金沢工業大学における研究活動の不正行為の防止等に関する規則
などがあります。

執筆担当

- 1 西村秀雄
- 2 札野 順
- 3-1 金 永鐘
- 3-2 金光秀和
- 4-1 柄内文彦
- 4-2 夏目賢一
- 5 岡部幸徳

ACADEMIC INTEGRITY

よりよい学びの場とはどのようなものだろうか

平成19年度特色ある大学教育支援プログラム

価値の共有による技術者倫理教育－行動を設計する新教養教育－

発行日 2010年3月1日

発行 金沢工業大学 科学技術応用倫理研究所

石川県石川郡野々市町扇が丘7-1

TEL: 076-294-6725

E-mail: aces@wwwr.kanazawa-it.ac.jp

URL: <http://wwwr.kanazawa-it.ac.jp/ACES/>

印刷所 高桑美術印刷株式会社

CHECK LIST

このチェックリストは、下記URLでダウンロードできます。
<http://wwwr.kanazawa-it.ac.jp/ACES/check.pdf>

課題提出前のチェックリスト

- 1 この課題は自分で直接おこなった調査ないし研究に基づいている(この課題は、他人が作成したものではない)
-

- 2 注や参考文献欄において、引用したすべての資料(本・論文・インターネット上の情報など)を正しい形式で記載している(他人の文やアイデアを、典拠を示さずに用いていない)
-

- 3 インターネットからの情報には、タイトルと作成者、URL、確認日などを明記している
-

- 4 引用した資料の表現や内容を不正に使用していない(図表やデータの捏造・改竄・剽窃(FFP)をおこなっていない)
-

- 5 この課題の内容において、実際に何も作業をおこなっていない人間を共同執筆者として記していない
-

- 6 この課題は、他の場所で提出した課題の流用ではない(これと同じ内容の課題を別の科目で提出していない)
-

DATA

科目名

担当教員

学 科

学籍番号

提出日
